

【所属名：環境生活課】

【会議名：第3回糸魚川市環境審議会】

## 会 議 録

作成日 令和2年3月25日

日	令和2年3月18日	時間	13:30~14:40	場所	市役所203・204会議室
件名	議題 第2次環境基本計画（案）について（公開）				
出席者	【出席者】 12人 池亀 正文、石橋孝一、伊藤 健一、小野 清隆、菅原 賢明、杉野 朝子、杉本 日出晴 田村 三樹夫、葉葺 久尚、安田 初恵、山縣 耕太郎、吉田 惣栄				
	【欠席者】 1人 齋藤 伸一				
傍聴者	【事務局】 環境生活課：高野課長、小竹係長、木嶋係長、川原主査 株式会社サンワコン：森 洋市、小町 亮介				
	傍聴者定員	— 人		傍聴者数	1人

### 会議要旨

1 開会・あいさつ 進行 小竹係長

2 会長・副会長の選出 会長に山縣委員、副会長に池亀委員を選出

3 議事 進行 山縣会長

《主な質疑・意見》

#### ●第2次糸魚川市環境基本計画（案）について

【事務局】 ・パブリックコメント実施結果 意見等なし

・素案との変更点の説明 3ページ生物多様性 表現の変更

11ページオゾン層の破壊・酸性雨 グラフの追加

14ページ希少種・外来生物 写真の追加

35・39ページ説明資料の追加

・新エネルギービジョンについて

環境基本計画に内包する予定から、新たにビジョンを策定することとした。

理由：FIT制度の変更などの社会情勢が変化してきたことにより、当市において実効性の高いビジョンを作成する必要性を感じたため、具体策を盛り込んだ内容で、別に策定を行うこととした。

・事前にいただいたご質問に対する回答 別紙

【委員】 新エネルギービジョンは、来年度に、より詳細なものを作成し発行するという認識でよろしいか。

【事務局】 来年度に作成、発行できるよう令和2年度予算に計上した。

- 【委員】 報告書 P. 11 オゾン層の破壊・酸性雨のグラフ縦軸の説明に、「縦軸は、世界平均のオゾン全量の 1970～1980 年の平均値と比較した増減量」とあるが、“世界平均のオゾン全量”という表現はどう捉えたらよいか。
- 【事務局】 気象庁のホームページに記載されている文面をそのまま掲載している。表現として理解しづらく、明瞭な説明が難しい文章なので、よりわかりやすい表現を検討する。
- 【委員】 この計画の内容について、今後、委員が確認する機会はあるのか。
- 【事務局】 修正等が発生した場合、必要なものは修正作業を行うが、判断は事務局で行い、策定の決裁及び製本作業に移ることになる。本審議会が計画案を確認いただく最後の場になると考えている。
- 【委員】 今回作成した計画を、市民にわかりやすく伝える方法は考えているか。
- 【事務局】 計画を各公民館や図書館に配布し、公表する。冊子は内容量が多いので、大切な部分をまとめたダイジェスト版を作成する。
- 【委員】 市のホームページにも掲載されるか。
- 【事務局】 掲載する。
- 【委員】 せっかく作成した計画なので、作成したことを広報してもらいたい。
- 【委員】 本編 P. 19 リサイクル率の推移のグラフでは、平成 24～25 年にリサイクル率が上昇している。これは、平成 25 年 3 月の「ごみの分別ガイド」発行時期とリンクしている。しかし、市民アンケートの結果から、まだ分別の取組が定着していないと感じた。市として講座等を開き、実際に分別の手本を示し、ごみについて考える場を設ければ、分別がより定着するのではないかと思った。
- 【事務局】 令和 2 年度からごみの分別方法が変わるため、2 月末までに 14 会場で出前講座を開き、約 460 人から参加いただいた。これからも出前講座を続けていき、分別が変更した点の告知や、ごみの分別への協力を伝えていきたい。紙類については、これからもリサイクル率の向上を見込めると考えている。さらなる周知に努めていきたい。
- 【委員】 市の放送で、ごみの分別に関する内容が流れるが、同じ内容が多く、聞き流すようになってしまっているところがある。スプレー缶の処理方法など、違う内容を放送することで、市民も放送を意識し分別意識の向上になるのではないか。
- 【事務局】 新しいごみ処理施設では、資源物以外の家庭ごみのほぼ全量を処理する。ご指摘のとおり分別違いが多々見受けられる状況にあり、可燃物に金物が混入することで、炉の破損などの事案が発生することも懸念している。そのような観点からも、分別の周知徹底に努めていきたい。
- 【委員】 本編 P. 10 の CO<sub>2</sub>排出量の将来予測値と削減目標値との比較では、国と県の目標値「令和 12 (2030) 年度までに温室効果ガスを平成 25 (2013) 年度比 26.0%削減」に対して、令和 12 (2030) 年度の市の排出量趨勢値が 23.2%の削減になるとの記載がある。市民に対して警鐘を鳴らすためにも、このままでは削減目標を達成できない、ということを明確に示した方がよいのでは。
- 【事務局】 よりわかりやすい表現を検討する。
- 【委員】 資料編 P. 31 に注記として、「現状のままでは目標を達成しません」等の一文を入れるとわかりやすいと思う。

- 【委員】 市の目標値も、平成 25（2013）年度比 26.0%削減とすることで間違いないか。
- 【事務局】 間違いない。
- 【委員】 本編 P.15 リサイクル率の推移に記載されている「中間処理施設資源化量」とはどのようなものか。
- 【事務局】 旧ごみ処理施設は炭化炉であり、可燃ごみを燃やして灰にするところを炭（炭化物）にして原燃料化しセメント等に利用していた。この重量と、燃やせないごみのうち、中間処理施設等で発生する廃プラスチックを原燃料化しセメント等に利用していた重量を合わせ、中間処理施設資源化量として計上していた。
- 【委員】 新しいごみ処理施設では、リサイクル率などのごみの処理状況が改善されるのか。
- 【事務局】 炭化物の発生率について、従来の炉ではごみの処理量に対し約 21%（平成 30 年 2,664 t）だったところ、新炉ではごみの処理量に対し約 7%（令和 2 年 850 t）まで減少する見込みになっている。新しいごみ処理施設は、炭化炉ではなく焼却灰を排出するものになっており、中間処理施設資源量は、炭の重量分約 1,800 t の減少になると推測している。これに伴い、リサイクル率も減少すると推測している。
- 【委員】 外を出歩いていると、集落の空き家や荒れた土地が目立っている。こういった問題への対応も考えていくべきだと思う。
- 【事務局】 人口減少にともない空き家や荒廃した土地が増加している。空き家については来年度に調査を行う。管理をされていない家屋は早めに解体していただけるように声掛けをしていきたいと考えている。

#### ●第 2 次環境基本計画の作成、環境審議会の委員を務めての感想

- ・ 動植物の多様性、保全に関わっておりまして、フォッサマグナミュージアムの方々と貴重な糸魚川の動植物や地形を保存する方策を考える取組みを始めております。具体的な提案ができるまでもう少しの段階ですが、形になりましたら、環境部門の方とも連携をとりながら糸魚川市の生物の多様性を守る活動を取り組んでいきたいと考えております。このような機会をきっかけに、糸魚川市でこのような取り組みをしている人たちがいることを意識してもらえれば幸いです。
- ・ 企業の立場として、市の環境に与える影響は、地域は限られますが、大きいところがあるかもしれません。企業として日々改善しているところですが、これからも市民の方と一緒に、糸魚川市全体の環境を改善する活動を続けていきたいと思っております。
- ・ 耕作放棄地の増大などは県の課題でもあります。農地・森林の維持が農業振興や林業振興、地域振興に繋がっていくのだと思っております。人口問題にも多少なりにも影響があるのではと思っています。今後も環境への取り組みを続けていきたいと思っております。
- ・ 市民目線で拝見させていただいております。計画の中でグラフを多用するようになり見やすいなど感じました。話は変わりますが、魚の漁獲量が昨今目まぐるしく変わっています。地球温暖化の影響、海水温度の上昇や異常気象などが、天然資源の収穫・生産に直に影響されていると感じます。市のみだけでなく、国民、世界規模で地球環境を考えていかなければならないと思っております。

- 6町歩の水田の管理と小規模の畑を営んでおります。最近ではイノシシが土手を掘り起こす被害が目立っており、水不足の苦勞もあります。ゆくゆくはイノシシやシカの被害で農耕ができなくなるのではないかと不安に思っております。
- 27年間自然環境に携わる仕事をさせていただきました。不法投棄について、ごみの量は減ってきていますが、平野地と中山間地ではごみの捨て方が異なる状況があります。平野地は紙ごみやペットボトルなど車からのポイ捨てが多いですが、山間地では林道等にタイヤや家電などの大型の不法投棄があります。今後、より不法投棄が減るように林道などを巡視するとともに、不法投棄ボランティアの方が増えていくと良いなと思います。
- 当センターでは、測定・分析を行っている機関ですが、環境学習も行っております。本編 P.20を見ると環境学習の開催数が年間3回程度になっていますが、当方では令和元年度に16回（昨年は9回）保育園や小学校で環境学習を行っています。特に小学校の総合学習として活用していただいております。小学生や先生も関心をもって活動されています。温暖化防止についても、大人が聞くに堪えられる内容で実施しておりますので、是非皆様にも広めていただきたいと思っております。
- 計画は非常に幅が広く、SDGsも盛り込んだ素晴らしい計画になったなと思っております。また新エネルギービジョンが来年度策定されるということに安堵しております。この地域には2年間住んでおりますが、今年のように雪がほとんど降らないとよかったと思う反面、異常な環境になったのだなと思います。このような環境問題に対しては、特効薬がありませんし、人口の問題も絡んできます。環境を良くしようと思えば、人手が必要になり、人がいなければ環境もよくなりません。環境の担い手を育てていくためにどのような施策を展開されるか期待をしております。
- ごみに対する意識の改善するいい機会だとおもいますので、是非お願いします。放送や広報で一人ひとりにごみへの意識を継続させることはとても難しいことだと思いますが、皆が継続した意識を持てるようによろしくお願いします。
- 農業を生業としております。里山などの自然の中で生物多様性がどんどん変化しているのを感じます。ボランティアで子どもたちと関わっていますが、子どもたちの環境への意識を向上させていかなければならないと痛感しています。生まれ育った地域の自然が誇れるものであったと、将来大人になったときに感じることであればいいなと思います。また、環境問題は様々ですが、糸魚川らしい施策があるといいなと思いました。佐渡市で取り組まれているネオニコチノイド系殺虫剤の使用禁止のように、この地域ならではの問題に対する施策について発言をできればよかったです。
- 本日で本計画が完成ということですが、皆様のご尽力のおかげだと思います。私としてはいいものができたと思っております。1つはSDGsと関連付けた計画ができているという点です。最近ではコロナウイルスの問題がありますが、環境問題などのグローバルな問題に対しては、国・県が指針を決めますが、実際に取り組むのは市町村レベルの自治体になります。そこで、市町村レベルでSDGsに関連付けた計画を策定することが重要になっていくのだと思います。もう1つは、市

民・事業者アンケートの結果をわかりやすくまとめていただいて、提示することができた点です。市民の方々の認識・理解の状況をきちんと示していただいたと思います。せっかく策定した計画ですので、10年間、毎年PDCAに基づいた確認をしながら遂行していき、環境教育など様々なところで活用していただきたいと思います。

- 4 その他
- ・基本計画公表までの流れについて  
今回の審議会でいただいた意見などを反映し、文言などを修正して成案としたい。その後冊子を作成し、市民の皆さんに対しわかりやすいダイジェスト版を作成し公表する。
  - ・令和元年度PDCAサイクルについて  
3月で今年度の事業が終わることから、内容をまとめていく。  
内容については、第2次基本計画の冊子とともに郵送する。
  - ・次回の審議会  
新しい計画に基づいて、進捗状況を管理いただきたい。  
時期は未定だが、開催時にご案内するので、ご出席をお願いしたい。

5 閉会